

2018年7月
No.18-059a(全)※1

「PD-L1(28-8)《IHC法》」悪性黒色腫の 適用拡大と受託開始のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、この度、標記項目の受託準備が整いましたので、取り急ぎご案内いたします。
なお、当該項目は免疫チェックポイント阻害剤の一つであるニボルマブ(オプジー[®])
およびイピリムマブ(ヤーボイ[®])投与による悪性黒色腫への治療可否の判断に推奨されており、細胞上の PD-L1 の発現状態を免疫組織化学染色(IHC)により検査するものです。

取り急ぎご案内いたしますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

■新規受託項目

項目コード	-
検査項目名	PD-L1(28-8)その他《IHC法》
検体量/保存方法	未染標本スライド 5枚(4~5μm厚) ^{*1} / 室温 [容器番号:20]
検査方法	免疫組織化学染色(IHC)
所要日数	7~11日 ^{*2}
検査実施料	2,700点 ^{*3} ([N005-3]PD-L1タンパク免疫染色(免疫抗体法)病理組織標本作製)
判断料	150点(病理判断料)
備考	*1: 悪性黒色腫を含む組織のホルマリン固定パラフィン包埋ブロックから作製された未染標本スライドをご提出下さい(スライドは剥離防止コートスライドガラスをご使用下さい)。組織標本の固定は 10%中性緩衝ホルマリン、24~48 時間が推奨されています。スライド枚数は再検査分も含みます。薄切後4ヶ月以内に染色を完了させる必要があります。 *2: 所要日数には再検査の日数は含まれておりません。また、パラフィンブロックでご依頼の場合は、別途日数がかかります。 *3: 免疫チェックポイント阻害剤の一つであるニボルマブ(オプジー [®])およびイピリムマブ(ヤーボイ [®])の投与による化学療法未治療の根治切除不能な悪性黒色腫患者への治療適否の判断を目的とする検査で、投与方針の決定までの間に1回を限度として算定できます。
検査委託先	LSIメディエンス(→1)

※PD-L1(28-8)その他「検査をご依頼される場合は、「採取臓器名」を漏れなくご記載下さい。

なお、当該検査項目は頭頸部を材料とした測定も実施しています(Information 17-168a(全)※1)。

■受託開始日

●2018年7月13日(金)

以上